

## さくら苑リハビリセンター 2016年度 総括

はじめに

近年の老人保健施設には、第一義的なご利用者・ご家族への支援は言うに及ばず、地域に対してのアプローチが求められています。老人保健施設は、ご利用者にとっての入り口であり、また出口にもなることでしょう。もちろん出口の先には、在宅や関連施設があり、それらもまた地域と繋がっています。地域との信頼関係づくりは、間接的に現在の、そしてこれからのご利用者の支援に繋がる活動だと感じています。

今年度、さくら苑では、地域に向けた出張健康相談等、新たな取り組みがスタートしました。この活動は、管理者が提案したものではありません、数名の職員の思いから始まった活動です。「思い」や「志し」は前に進んでいく大きな力です。さくら苑職員の「思い」や「志し」がどのような実践に結びついたのか、2016年度の5つの使命にもとづき総括を以下に行ないます

### I 法人一の接遇を目指します

#### 1、だれからみても気持ちのよい対応・接遇を目指し取り組みを強化します

生活支援部では、食事配下膳時の様子をビデオ撮影し、客観的に支援中の様子を評価することが出来ました。声かけの丁寧さ、下膳時の食器がぶつかる音がうるさい等、改善ポイントの抽出を行い、改善に結びつけました。また、改善後に再度撮影を行い、継続できているか振り返りも行いました。また、3階利用者向けに接遇アンケートを作成し、3月に実施しました。

#### 2、全職員が「笑顔であいさつ」「です・ます」に取り組みます

生活支援部では、各職員がご利用者に対し自身の名前と挨拶をしてから、業務に入るようにしました。

通所リハビリ部では、「モチベーション」と「接遇向上」を意識した、朝の唱和を全員で行い、一日の業務をスタートすることを継続しています。

### II 利用者・家族に圧倒的に選ばれる施設を目指します

#### 1、地域から圧倒的に選ばれる事業所を目指し、部署ごとに新しい実践づくりを行います

生活支援部では多様な利用ニーズに対応できるよう、ユニット独自の在宅復帰計画書を作成しました。また、ターミナルケアの質向上を目指し、施設管理医師を講師に学習会を行い、現在3名の方のターミナルケアを実践しています。

リハビリ部では、新しい試みとしてEトレを開始し、少しずつ定着してきています。

更に3月より、きめこまやかなケアマネジメントが出来るよう、さくら苑全体でR4システムの導入を行いました。

#### 2、さくら苑を取り巻く情勢や地域の変化介護事業所の動向について情報収集を行ないます

支援相談部では、民医連や老健協などの会議や研修等に積極的に参加し、情勢等の情報収集を行うことが出来ました。また、近隣の老健とも日常的にコミュニケーションを図り、お互いの運営及びサービスの質向上につながっています。

- 3、さくら苑の機能を活用し、老健施設に求められる地域復帰への取り組みを強化します  
ご利用者・ご家族により安心して地域復帰していただくため、入所後早期に復帰先へ多職種で訪問し情報収集することができました。  
地域復帰者は、月平均目標2.5名に対し3.9名(50%)、回転率11.3%となりました。
- 4、人権を守り利用者本位の個別支援を推進します  
生活支援部では、ご利用者個々の生活支援を充実していくため、こまめなケアプランの見直しを心がけました。また、R4の導入により、更にきめこまやかな、多職種協同によるケアプラン作成の可能性が広がりました。
- 5、「その人らしさ」を発揮してもらえるよう自己選択、自己決定を尊重したケアに取り組みます  
いけいけGOGOプログラムでは、リハビリへの意欲向上と達成感の共有を目的とし、ショートスティ利用者の方に、希望の外出先への外出支援を3回実施することが出来ました。  
生活支援部では、ご家族協力のもとニーズを取り入れた誕生日のお祝いが出来ました。
- 6、リニューアルについての検討を継続的行なっていきます  
今後のさくら苑リニューアルに向けた討議の一步として、職責者会議内で『未来のさくら苑』をテーマに、各職責者がリニューアルに必要なさくら苑の要素を出し合いました。

### III 地域・施設を支える職員づくりを進めます

- 1、「学び・考え・実践する」職員を育成し、働き甲斐のある「本音で語れる職場づくり」を進めます  
本年度も、外部研修及び内部研修と積極的に研修に参加することができました。また、各部署において、チームビルディングを目的とした、マネジメントの工夫を行いました。
- 2、MBOにもとづく評価とフィードバックを3ヶ月毎以上の頻度で行ないます  
昨年度の評価も含め、本年度は目標設定を2つに簡素化しました。昨年より取り組みは進みましたが、年間を通しMBOが活用できなかった部署もありました。今後は、マネジメントツールを大きく一新していく事も視野に取り組んでいきます。
- 3、管理者・職責者は実践理念を語り、実践の評価及びフィードバックを行います  
生活支援部では、ユニット会議に定期的に職責者が参加し、お互いの意見を交換しました。  
実践の評価及びフィードバックにおいては、通所リハビリ部ではMBOの活用により、一定の成果を上げることが出来ました。
- 4、さくら苑内で活用できるキャリアパス・キャリアラダーについて研究を進めます  
職責者会議内で、キャリアパス・キャリアラダーについて学習を行いました。
- 5、民医連活動を通じ社会の動きや社会保障・福祉諸制度の動向にアンテナを高く掲げます  
民医連主催の各研修会に積極的に参加することが出来ました。また、12月に開催された経験交流発表会内で行われた講演では、社会保障を学ぶ良い機会となりました。

### IV 地域とともに、地域に根付いた運営を進めます

- 1、今求められる地域貢献活動とは何かを理解し、何が出来るのかを検討・実践していきます

今年度は、さくら苑の機能を地域へ活用していくため、通りハ相談員、リハビリ職員、管理栄養士が中心となり、医療生協、地域へと年間4回出張健康教室を開催することが出来ました。

また、将来の介護職づくりの一環として、さくら苑祭り、言いたい知りたい西大寺で介護体験コーナーを開催し、約200名の子ども達に参加してもらいました。

## 2、さくら苑ブロックを中心にすえ「地域住民」との協力協同を実現します

友の会元気生きがい部とともに、カラオケ交流会を開催することが出来ました。初めて、さくら苑に来ていただく方もあり、良いアピールの間となりました。

また、地域の状況を聞かせていただき、水路掃除支援の充実や安全パトロール隊への支援といった新しい取り組みを検討することが出来ました。

## 3、家族会やさくら苑ブロック活動を通し利用者家族・地域との意見交流を深めます

生活支援部では家族会を、通所リハビリ部ではオープンデイケア等を開催し、意見交流を行いました。また、毎年恒例となっている地域訪問では、新たな町内にも足を運び、アンケートをとることが出来ました。

## 4、家族会やボランティア活動の充実・育成への支援を行ないます

通りハ部では年間24組(内、新規8組)のボランティアの皆様へ支援していただくことが出来ました。また、定期的に将棋ボラの方が来て下さい、利用者の方が喜ばれています。

## 5、利用者・職員・地域住民のいのちと安全を守る防災対策を進めます

今年度、職責者会議内で非常食について学習会を行い、2日分の食品、飲料水の購入を行いました。また、災害マニュアルの見直しを行いました。

## 6、開設20周年記念行事の準備を進めます

5月8日にはご利用者対象に、5月15日には地域の方対象に20周年記念行事を行いました。5月15日には135名の皆様を迎え、盛大に式典及びイベントを開催することが出来き、今一度、地域とともに歩んでいくさくら苑の強みを感じる事が出来ました。

## V 安定した経営に取り組みます

### 1、「利用者の生活を守り、職員のくらしを支える」事業所経営を確立するため、利用者確保を職員全体で進めます

さくら苑の広報方法の充実を図るため、「手元にとっておきたくなるパンフレット」をコンセプトに友の会会員さんによる絵手紙パンフレットを作成しました。また、東区役所にはインフォメーションボードへさくら苑のCMを流しています。更に、3月からは、情報伝達の選択肢を増やすため、タブレット端末を採用し活用し始めました。

### 2、より質の高いサービス提供及び安定経営を目指し、新たな加算取得にチャレンジします

通りハ部では、リハビリ部ではリハマネⅡの取得に力を入れました。

### 3、事業所経営の実態をより早く正確に伝え、集団討議のできる仕組みづくりに努めます

各職責者が経営への参画意識を高め、また、各職場会議等で経営状況を正確に伝えられる様、職責者会議内での経営報告は持ち回りで、事業活動計算書の報告を行いました。

## さくら苑リハビリセンター 2017年度 方針

2017年度を実り多き年にしていくため、以下の目標を設定します。

### I 法人一の接遇を目指します

- 1、だれからみても気持ちのよい対応・接遇を目指し取り組みを強化します

### II 利用者・家族に圧倒的に選ばれる施設を目指します

- 1、地域から圧倒的に選ばれる事業所を目指し、部署ごとに新しい実践づくりを行います【法-(2)】
- 2、さくら苑を取り巻く情勢や地域の変化介護事業所の動向について情報収集を行ないます【法-(1)】
- 3、さくら苑の機能を活用し、老健施設に求められる地域復帰への取り組みを強化します
- 4、人権を守り利用者本位の個別支援を推進します
- 5、「その人らしさ」を発揮してもらえるよう自己選択、自己決定を尊重したケアに取り組みます
- 6、「安心・安全」を支えるリスクマネジメントに取り組みます
- 7、リニューアルについての検討を継続的に行なっていきます

### III 地域・施設を支える職員づくりを進めます

- 1、「学び・考え・実践する」職員を育成し、働き甲斐のある「本音で語れる職場づくり」を進めます【法-(3)】
- 2、MBOにもとづく評価とフィードバックを3ヶ月毎以上の頻度で行ないます
- 3、お互いを大切にし、感謝を伝え、ともに成長し合える施設をつくります【法-(3)】
- 4、役職者評価と育成に取り組みます【法-(3)】
- 5、さくら苑内で活用できるキャリアパス・キャリアラダーについて研究を進めます
- 6、民医連活動を通じ社会の動きや社会保障・福祉諸制度の動向にアンテナを高く掲げます【法-(7)】

### IV 地域とともに、地域に根付いた運営を進めます

- 1、今求められる地域貢献活動とは何かを理解し、何が出来るのかを検討・実践していきます【法-(8)】
- 2、さくら苑ブロックを中心にすえ「地域住民」との協力協同を実現します【法-(5)】
- 3、家族会やさくら苑ブロック活動を通し利用者家族・地域との意見交流を深めます
- 4、家族会やボランティア活動の充実・育成への支援を行ないます
- 5、利用者・職員・地域住民のいのちと安全を守る防災対策を進めます【法-(6)】

### V 安定した経営に取り組みます

- 1、「利用者の生活を守り、職員のくらしを支える」事業所経営を確立するため、利用者確保を職員全体で進めます【法-(4)】
- 2、より質の高いサービス提供が出来るよう、リスクマネジメントの感性を高めます【法-(3)】
- 3、事業所経営の実態をより早く正確に伝え、集団討議のできる仕組みづくりに努めます

具体的な量的目標、期限目標等は各部署目標書に明記します